

令和6年度 明石小学校 外部評価報告書

評価委員：守本委員 櫻井委員 箱守委員 牛嶋委員 桑原委員 矢田委員

報告書作成者： 守本 利雄

評価時期 令和7年2月18日

1 重点目標の評価

【重点目標1について】

- 授業の公開に際しては、低学年から高学年に至るまで、さまざまな場面で工夫を凝らしタブレットを活用している様子がみられた。体育科や図画工作科の授業でもタブレットを効果的に利用しており、非常に感心した。今後、さらに効果的な活用方法を模索してもらいたい。
- タブレット端末の導入が、児童の関心や興味を引き出すことに貢献しているという点は非常に良い。さらに学びの質を向上させるため、個別に最適化された学習やテーマごとの活動が加えられることで、さらに興味を引き出す工夫が進められることを期待する。
- 教員が児童に指導を行う際に、上から目線ではなく、児童一人ひとりが自分で考え、学べるような環境を提供している点が評価される。また、明石小の児童が非常に素直であることは特筆に値する。今後も、児童が自らの力を引き出し、主体的に考え行動できるような指導が続くことを期待する。

【重点目標2について】

- 登下校時の児童の様子からは概ね良好な印象が得られるが、保護者に比べると挨拶の頻度が少ないと感じられる。自発的な挨拶を習慣化し、さらに学校と家庭で共に指導を継続することが重要である。
- 児童が仲良く下校している様子が多く見受けられ、いじめのような問題が見られないことは非常に良好である。この状態を引き続き維持することを期待する。

【重点目標3について】

- 体力向上を目指した委員会活動や、持久走や持久力を高めるダンスを取り入れるといった取り組みは、とても素晴らしい。特に小学校では、楽しみながら体力をつけることが大事である。

2 今後の改善に向けた意見

- 言葉遣いは学校教育活動全体を通して、学校で整えて指導してほしい。
- 挨拶については学校だけでなく、家庭や地域と連携をとり主体的に関わるよう環境を整えていく。
- 運動はテクニカルへの指導中心から生涯にわたって運動に親しめる素地を小学校教育に期待している。

3 その他の意見

- 学校公開の取り組みでは、保護者に感謝の気持ちが伝わる授業や環境作りがなされており、とても嬉しく感じられる。
- 明石小学校では、現在、感染症の影響が落ち着いているとはいえ、完全に収束したわけではない。体調不良時には適切な休養や医療機関の受診が重要である。
- 児童が非常に元気で、保護者からも概ね好意的な評価が寄せられていることは大変喜ばしい。これからもこの良好な状況が続いていくことを望む。
- 課外スポーツ活動において、チームメイトに対する言葉遣いが気になる場面があった。相手を思いやる気持ちを大切にしながら、適切な言葉遣いや声かけができるよう、学校や地域、保護者が協力して指導にあたることが重要である。
- 場に応じた言葉遣いができない背景には、学校や家庭、児童本人の心の問題を考慮する必要がある。単に注意するだけではなく、児童が「助けて」と言えるような雰囲気作りを学校には求めたい。
- 児童の言葉遣いおよび友人とのコミュニケーションについて問題がある場合、日常的な指導に加え、道徳の授業を通じた教育も効果的であると考えます。
- 他学年の児童を名前で呼ぶことは親しみの表れでもあるが、「さん」を付けるなどの指導については、適切なバランスをとることが求められる。
- 大人であっても先輩であっても児童とは友達感覚で話すこと自体は許容されるが、そこにリスペクトの感覚を持たせることが重要である。それが欠けている場合、他の場面での適応が難しくなることがある。リスペクトの感覚を育むことで、社会の他の場面でも円滑なコミュニケーションを図ることができる。

* 3月末に各学校のホームページで公表していきます。